



入場無料

2020

7月1日(水)
~26日(日)

矢島群芳 花鳥画展

木々に集い、花にさえざる



新潟大学
旭町学術資料展示館

開館時間：毎週水曜～日曜 10:00～12:00 13:00～16:30
(但し最終日は 15:00 で終了) 休館日：月曜・火曜



きわめて モダン



江戸時代の日本は鎖国をしていたが、わずかにオランダと中国とは交易をしていた。八代將軍吉宗の時、長崎にやって来た清人の沈南蘋が、従来の日本にはなかった写実的な花鳥画を伝えると、たちまちその画風は京都や大坂、江戸へと伝播し大流行した。矢島群芳は高崎の出身。円山・四条派の写生画を学んでいたが、南蘋画風も習得して名をあげた。当時の江戸で、本展示作品の画風は洒落ており、またきわめてモダンでもあった。

新潟大学名誉教授
武田光一
(日本美術史)



新潟県旧西蒲原郡の旧家にあった14点の花鳥画を紹介。これらは六曲一双と二曲一隻の屏風に本来は仕立てられていたものです。

新潟の旧家には近世から近代にいたる様々な絵画や工芸品が収集所蔵され、その屋敷の座敷などを四季折々に飾ってきました。しかし近年の住環境や生活様式の変化にとまらぬ、そうした絵による室礼が行われることも少なくなりました。これらの絵は旧家の改築にあたって、絵に出会い魅せられた新潟市の個人の許に移り、軸装に新たに仕立てられました。

新潟に眠っていた 知られざる幕末の名品、 初公開

矢島群芳は寛政10(1798)年に高崎藩士の子として生まれ明治2(1869)年に亡くなった画家で椿椿山(うづつん)ほかに師事し、花鳥画を得意としたとされています。

花鳥画というのどかなジャンルの魅力が、生き生きと伝わる優品です。目をこらして見ると、近世絵画の独特なさまざまな技法が周到に、また鮮やかに駆使されています。絵好きのみならず、鳥や植物に興味ある方々にも楽しんでいただきたいと思えます。現在ではあまり身近にふれる機会の少なくなった、近世の絵の魅力にふれていただけると幸いです。



木々に集い、花にさえずる 矢島群芳 花鳥画展

2020 7月1日(水)~26日(日) 入場無料

2階企画展示室 | 開館時間：毎週水曜～日曜 10:00～12:00 13:00～16:30
(但し最終日は15:00で終了) 休館日：月曜・火曜

新潟大学旭町学術資料展示館

新潟大学旭町学術資料展示館(あさひまち展示館)は、新潟大学の学術研究を通して収集・蓄積された標本類、実験器具、考古資料等の貴重な資料を広く公開する大学博物館です。



〒951-8122
新潟市中央区旭町通2番町746
TEL.025-227-2260

駐車場5台
数に限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。

www.lib.niigata-u.ac.jp/tenjikan/



リサイクル適正 (A) この印刷物は、印刷時の紙へリサイクルできます。

特別協力 新潟大学農学部関島研究室

「矢島群芳十四幅」を生物学的見地から解剖する

さまざまな鳥が生き生きと描かれているのが特徴の展示作品。画家は鳥をどこまで正確に描いているのか、それとも創作を含むのか。動物生態学を専門とする新潟大学

農学部関島恒夫教授に協力を仰ぎ、描かれた鳥たちを美術史的見地のみならず、生物学的な見地からも分析し、パネルで紹介いたします。

大学内
コラボ